

『風景』

泣いている風に見えたのは少女だった
慰めようと話しかけたのは少年だった
だけど少年には声がなかったから
少年は自分より少しだけ背の高い少女の頭をぼんぼんと
恐る恐る髪の毛にだけ触れるように撫でてから
ずっとずっと少女の横で無理して笑っていた

じつと隣で笑っていたのは少年だった
ずっと瞳を隠していたのは少女だった
最初の涙はとくに止まってくれていたけれど
少女は少年が離れて行ってしまうことが怖くて
だから泣いていないと知られてしまうことが怖くて
そうしたら今度こそ涙が止まらなくなっていた

とある絵描きのキャンバスに
幸せそうな二人の子供が並んでいた
とある絵描きの画用紙に
悲しそうな二人の子供が並んでいた

幸か不幸か見る者によって変わってしまう風景で
いつまでもいつまでも
笑う少年と泣いている少女が
触れそうで触れない距離で二人一緒に並んでいた